



グローバルラウンジで留学生といっしょに

CONTENTS

・英語	ヨッパ 語研は愛大言語学習の窓口	国際コミュニケーション学部	鎌倉 義士	…… 2～3
・英語	留学で世界を知ろう！——（意外と）知られざる愛大の留学プログラム			
		国際交流委員長・経済学部	川端 朋広	…… 4～5
・英語	“話す” 英語の力をつけるフリートーク			
		国際コミュニケーション学部3年	土江 咲穂	…… 6
・日本語	ピアサポーターで知った英語の楽しさ	法学部4年	鈴木 良梨	…… 7
・フランス語	言語学習のモチベーション維持と学習法の紹介	文学部4年	林 優羽奈	…… 8
・ドイツ語	音声記号で発音を習得する	国際コミュニケーション学部2年	山本 徹弥	…… 9
・中国語	外国語学習を通じて広がる新しい世界			
		国際コミュニケーション学部4年	倉橋 杏心	…… 10
・韓国語	日韓タンデム学習で得た貴重な経験	現代中国学部4年	PARK JAESUNG	…… 11
・韓国語	授業外で韓国語を学び、交流できる愛大での取り組み		法学部 朴 瑞庚	…… 12～13
・フランス語	Le Global Lounge: Un laboratoire d'immersion francophone à l'Université d'Aichi		国際コミュニケーション学部	
		コランタン・ピーターズ	…… 14～17	
〈名古屋キャンパス〉 2024年度 第30回 外国語コンテスト結果報告				…… 18
〈豊橋キャンパス〉 LanguageCafé・今秋、新棟へ移転予定！				…… 19
2025年度外国語検定試験奨励金制度のご案内／編集後記				…… 20

おススメ、愛大の外国語の学び方

授業外でも学ぶ言語と広がる交流の場

語研は愛大言語学習の窓口

国際コミュニケーション学部
鎌倉 義士

愛知大学名古屋語学教育研究室。これが「語研」と多くの先生が呼ぶ学内での言語学習を支援する組織です。厚生棟4FのW402教室向かいに常にドアが開いていて、廊下には謎の冊子が置かれた本棚がある部屋です。この文章を読む学生さんの中には未だ入室したことが無い方もいるでしょう。一見入りにくい部屋に見えますが、入室してくれれば語研担当事務員さんが明るく出迎えてくれます。語研は愛知大学で語学を担当する教員が室員として所属しています。英語・ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・韓国朝鮮語・タイ語の教員はもちろん、留学生を教える日本語の先生も室員としてご活躍頂いています。では、語研は愛知大学の学生のみなさんにどのような言語学習のサポートを行っているのでしょうか。

語研は愛大生の言語学習を称えます。学生のみなさんが授業内外での言語学習への努力の成果を「外国語検定試験奨励金」で称えています。具体的には、検定試験の基準を満たした学生さんには、奨励金という形で図書カードを交付しています。その金額は検定試験代金の半分以上に相当します。外国語検定試験を受験し、合格したら忘れずに語学教育研究室に出向き、奨励金の申請を行ってください。申請基準や申請期間は、語研で確認してください。

まだまだ語研は愛大生の言語学習を称えます。

名古屋語学教育研究室では、年に一度秋学期中に8言語10部門で外国語コンテストを開催しております。1年次必修の未習言語（第二外国語）の授業でコンテストの告知がされるため、1年生の参加が盛んではありますが、毎年多くの学生さんが参加します。外国語コンテストと聞くと難しそうに想像しますが、英語以外の言語では教員が提示する文章や歌を朗読もしくは暗唱することが課題となります。春から学び始めた言語でも、当然コンテストに参加できる実力が皆さんにはあります。多くの方が小中学生から学ぶ英語はややレベルが高く、オリジナルの原稿を用意してスピーチを審査するコンテストとなります。英語コンテストは難度が高い課題を課される一方で、英語以外の言語コンテストは年によっては参加者が限られることがあり、運が良ければ数人の中で入賞することも夢ではありません。履歴書に記載できる立派な受賞歴となります。是非ともご参加ください。

語研は愛大生の言語学習を支援します。皆さんが外国語学習の成果として能力検定を受験しま



厚生棟4階にある名古屋語研入口

す。前述の奨励金だけではなく、検定の試験勉強に必要な問題集やテキストを語研では貸し出しています。図書館でも一部検定用テキストの貸出をしますが、規定により同一図書を複数所有することができないため、誰かが先にテキストや問題集を借りてしまうとその本は貸出期間が終了するまで借りることができません。一方、語研所蔵のテキストは人気がある問題集は複数準備することで、より多くの学生が利用できるように準備しています。もし希望のテキストが無い場合は、早めにリクエストを語研に伝えてもらえれば予算の都合はありますが、可能な限り早く、遅くとも翌年には必ず用意します。ぜひ検定試験前に語研が所蔵するテキストと問題集を利用してください。

名古屋語研と同じ階にあるメディアゾーンが所蔵する DVD や書籍は語研が管理しています。その中でも NHK 語学講座のテキストは最新号から前年度 2 年分が閲覧できます。最新テキスト以外は貸出可能です。NHK ラジオとテレビで放送されている語学講座は質が高く、私も学生時代から現在まで利用しています。特に、ラジオ講座は月曜から金曜まで 15 分間の放送があり、継続的な学習に向いています。英語以外の言語を学んだ後に、夏と春の長期休みの間に復習を兼ねて勉強することをお勧めします。NHK ラジオ講座は各言語を未習の学習者を対象に基本から始めて、6 ヶ月間かけて初級レベルを修了します。その後、4 月や 10 月から再度最初から始めるので、基本を繰り返し学ぶことに最適です。NHK テキストは一冊 660 円 (2025 年時) と安くはありません。メディアゾーンでテキストを見て勉強すれば節約できます。



手前が検定テキスト書架

さらに、2 年前の NHK テキストは語学教育研究室にて抽選による配布をしています。6 ヶ月分のテキストをひと纏めにして配布し、言語によっては番組放送を収録した CD も配布しています。2 年前のテキストでも学習内容は全く古くありません。語学の基本は数年で大きく変化しません。自分のペースで学習したい学生には NHK テキスト抽選に申し込んで、初級レベルの学習を手元にあるテキストと CD で学べば、外国語検定試験に合格する効率的な方法となります。

このように語研は様々な方法で愛大生の語学学習を称賛し、後押ししています。この支援は皆さんが納める学費の一部でもあるのです。利用しないのは惜しく、残念です。本文ではご紹介できなかったのですが、機会があれば是非豊橋校舎にある豊橋語研を訪ねてみてください。光あふれるカフェのような素敵な雰囲気のある場所です。愛大語学教員とスタッフ一同で、学生の皆さんが語研に訪れることをお待ちしております。

留学で世界を知ろう！ ——（意外と）知られざる 愛大の留学プログラム

国際交流委員長・経済学部
川端 朋広

授業以外で言語を学び、海外の人と交流をする機会としては、やはり留学が外せません。国際交流課では、たくさんの留学プログラムを用意していますが、学生の皆さんと話をしていると、意外とその内容が知られていないかも！と思うことが多々あります。ここでは、あらためて、その知られざる（？）実態についてご紹介します。

まず、正課として単位認定の対象となるものは、通称、短期、1セメ、交換、の3種類があります。短期（＝海外短期語学セミナー）は、長期休みの1か月前後を海外で過ごし、語学学習や文化体験をするものです。参加にあたっては、一部、要件（検定試験のスコアや当該外国語の科目履修など）が課されるものもありますが、全くないものもあります。概ね、それほど語学のスキルが高くなくても参加可能です。長期は難しくても、在学中に一度は留学を！という人にもオススメです。

ただし、コロナ禍以降、すべてのプログラムが安定的に開催されるわけではありません。2025年現在、比較的、安定して開催されているのは、夏のカナダや韓国セミナー、春のカナダ、オーストラリアセミナーなどです。費用については、一律には言えませんが、英語圏の場合は80万円ほどを見込んでおくとういことだと思います。韓国など、アジア諸国でのプログラムは30万円前後と、だいぶ参加しやすい額になります。

いずれにせよ、簡単に出来る額ではありませんが、1か月近くを海外で過ごすということは、多くの人にとって学生の時にしかできないことでもあります。貴重な体験を求めて、ぜひとも検討をしてみてください。

続いて、1セメ（＝1セメスター認定留学）ですが、こちらは春か秋のどちらか1学期間を、海外の協定校で学び、そこで修めた学習内容、成績に基づいて、帰国後、各学部で単位認定をする、というものです。留学中も愛大での在学期間として扱いますので、4年間での卒業が可能となります。この点が、休学して留学する場合との一番大きな違いです。このプログラムは現在のところ、すべて英語圏となっています。（春：アメリカ、カナダ／秋：アメリカ、イギリス、カナダ）

参加するためには、学内での選抜試験にパスする必要がありますが、限られた人数枠を競って取り合う、というよりは、英語エッセイや英語での面接などで一定の実力を示すことが求められるものと考えてください。

なお、現在、1セメ認定を実施しているところは、落ち着いた地方都市が中心です。ニューヨークやロンドンのような大都市にあこがれる気持ちも、もちろん理解できるのですが、地方都市には、大都市にはない「その国らしさ」が感じられることも事実です。また、期間が長めになると、現地での学期中にも重なるので、他国から来る学生や現地の学生と触れ合う機会も多くなります。これまで学んだ英語を使って、たくさん交流したい人にはこちらがオススメです。

費用については、国、学校によって多少の差がありますが、渡航費、渡航先の学費、ホームステイや食費などの生活費で、200万～300万円弱、



オーストラリア、ブリスベン市内の住宅街にある小さな映画館。海外らしい雰囲気がありますね！

それに加えて私的な費用や、愛大の学費の一部負担、というところです。全体ではかなり高額になりますので、ご家族とよく相談の上、申し込んでください。

最後に交換（＝交換留学）ですが、これは協定校との間で、同程度の人数の学生を相互に派遣し、受け入れるというものです。（1学期間か、1年間）愛大に学費を納入しますが、渡航先での学費は無料となります。（渡航費や生活費等は自己負担）こちらは人数枠にも限りがありますので、一定の基準を満たした上で申請し、選抜試験でその権利を勝ち取る必要があります。

本学では中国、台湾との交換協定が最も多く、10校以上の派遣先があります。また、アジアではそれ以外にも、韓国、タイ、ベトナム、マレーシアの大学と交換を行っています。（このあたり、今はまだ志願者が少ないため、興味のある人はぜひチャレンジを！）

英語圏では、アメリカやカナダに4校の派遣先があります。ヨーロッパではドイツやフランスもありますし、それ以外に、最近、志願者が増えてきているのが、リトアニアのミーコラス・ロメリス大学です。リトアニア語なんかわからない！という心配はご無用。授業のほとんどは英語で行われます。もちろん、せっかく行くのですから、リトアニア語を学んでくることもできます。

さて、いかがでしたか？ 思った以上に様々な国、地域で多様なプログラムがあるのです。これ以外にも、正課外ではありますが、タイでのボランティア研修や、ベトナムでのインターンシッ



レジャイナ大学内にあるキャンパス・ピアノ。「誰も聴いていないかのように弾いてみて！」と言われても、色だけで十分目立ちすぎです！（笑）



レジャイナ市内の書店にあった「日本アニメコーナー」海外での人気の高さがうかがえます。

プ、タイやマレーシアでの短期文化体験プログラムなども、実施されることがあります。年により、実施状況は変わりますので、Live Campus Uなどで告知される情報をチェックして、気になるものがあれば、ぜひ国際交流課に来て聞いてみてください！

“話す” 英語の力をつける フリートーク

国際コミュニケーション学部3年
土江 咲穂

愛知大学名古屋キャンパスには外国語を学ぶ様々な機会がありますが、私はフリートークへの参加を通して英語を学ぶ機会を作っています。

私がフリートークに参加しようと思ったきっかけは、語彙力や文法の力があっても話す力がなければ英語を話せるようにはならないと感じたからです。自分の英語力には自信があったのですが、私の通っていた高校はあまりスピーキングの授業がなかったため、大学の授業で自分の意見を英語で伝えるということに苦戦しました。そこで、授業以外の時間でスピーキングの力を上げるためにフリートークに参加するようになりました。

フリートークは厚生棟の5階にあるグローバルラウンジで開催されています。事前に予約が必要ですが外国語を学びたい人ならだれでも参加することができます。英語のクラスは初級・中級・上級があり、レベルに合わせて英語を学ぶことができます。私は時々中級のクラスに参加していますがよく参加するのは初級のクラスです。初級のクラスでは自分たちでトークテーマを決め、それについて話すので初めて参加する人、英語に自信のない人にもお勧めです。

初めてフリートークに参加した時は自分の言いたいことが上手くまとまらず苦戦しましたが、回数を重ねていくごとに自分の言いたいことをすぐに英語の単語や文法に置き換えることができる頭になっていったように感じます。

フリートークは授業が開講されている時期だけでなく、夏・春の長期休暇の期間はオンラインでも開催されています。フリートークが開催されている時間が授業と被ってしまって参加できなかつ



アメリカのLAの市内にあるザ・グローブで

春休みはオンラインで英語を磨く！

ENGLISH FREE TALKS

開催期間：2/3(月)～3/21(金)

オンラインで英語を磨くチャンス！

※予約はこちらから
予約期間：2/3(月)～2/21(金)
※予約は2/3(月)～2/21(金)までです。
※予約は2/3(月)～2/21(金)までです。

参加 無料

時間	月・金・土	レベルの目安
9:50-10:50	初級	(初級) 基礎的な文法・単語の練習
11:00-11:40	中級	(中級) 日常会話の練習
13:50-14:10	上級	(上級) 専門的なトピックの練習

※グローバルラウンジのPCも利用可能です。
※予約は2/3(月)～2/21(金)までです。
※2/24(金)は休館日です。

愛知大学 国際コミュニケーション学部
GLOBAL LOUNGE

Global Lounge for Lecture & Study
名古屋キャンパス 5階 505号室
TEL: 052-731-2111 (内線2111)

オンラインフリートークの案内

た人もオンラインで開催されるフリートークに参加することをお勧めします。

また、フリートークは英語だけでなく、韓国語・中国語・フランス語などの言語でも開催しています。第2外国語で授業を取ってなくても参加できるので、いろいろな言語に興味のある人はぜひ参加してみてください。

ピアサポーターで知った 英語の楽しさ

法学部 4年
鈴木 良梨

私は3年の春学期、初めてグローバルラウンジで開催されている外国語フリートークに参加しました。そこで受付の福原さんと仲良くなり、ピアサポーター（以下：ピアサポ）を勧められました。ピアサポとは、愛知大学の協定留学生をサポートする団体です。私は英語が苦手なので、留学生のサポートは無理だと思いましたが、福原さんから活動内容を聞くうちにやってみようと思われ、ピアサポに応募、参加することになりました。

ピアサポの活動で一番印象深いことは、最初のイベントであるウェルカムパーティーです。初めてのピアサポでしたが、イベントの企画をやってみたかったので、リーダーに立候補、複数いるリーダーでウェルカムパーティーの企画、どうすれば楽しみながら日本のことを知ってもらえるかを考えます。私はすごろくのマスを季節の行事にして、日本の1年の行事を遊びながら知ることができるという内容を提案、なんとその案が採用されました。さらにリーダー会で会議を重ね、そこにミニゲームを交えていき、すごろくは成功を収めました。

すごろくの後に開かれたミニパーティで、お菓子を見ているだけで食べていない留学生を見つけました。英語は苦手ですが、日本のお菓子を味わって欲しかったので話しかけました。留学生は、私のつたない英語を聞いてお菓子を選び、食べてくれました。私の英語で何かを伝えることができると分かり嬉しかったです。

私は、ピアサポの活動を通じて変わったことが2つあります。1つ目は、日本のことはもちろん、会話をする上で必要だと感じた外国の文化・事情をもっと知りたくなりました。

相手に日本について質問されることもあります

し、私が相手の国について質問することもあり、会話には外国の歴史的背景や宗教などを知った上で配慮が必要であると強く感じたからです。

2つ目は、英語に対する苦手意識がなくなったことです。まずは今の英語力でもコミュニケーションを取れることが分かり、次にチャレンジしたことは、ECCの受付アルバイトです。

私の務める ECC 教室では、講師との会話は英語のみでした。少し驚きましたが、ピアサポの経験を通じて自分がどう伝えるべきか相手が何を伝えたいのか理解することができたため、臆することなく会話していくことができました。

そんなわけで、英語が苦手で嫌いだった私が留学生のサポートを通じてコミュニケーションとして英語を使う楽しさを知ることができました。



アルバイト先の ECC で講師と会話中



ウェルカムパーティー

言語学習のモチベーション 維持と学習法の紹介

文学部4年
林 優羽奈

私は現在、フランス語圏文化専攻に所属しています。しかしフランスに留学した経験はありません。それでも大学のキャンパス内で提供される学習サポートを積極的に活用し、大学三年の冬にフランス語検定準二級（以下：仏検）を取得することができました。留学経験のない私がどのように語学勉強へのモチベーションを保ち、学習を進めてきたのかご紹介します。

目標設定の重要性

モチベーションを維持する上で最も大切なのは明確な目標を持つことです。私は大学二年次には仏検三級、三年次には仏検準二級を取得することを目標に勉学に励んでいました。このような目標を自分の中で決めていたおかげで、普段の授業に対する意欲が高まり、予習・復習はもちろん、教

授へ質問や通学中の学習などを積極的に行うことができました。その結果、成績が伸び、試験直前に追い込んで学習を進める必要がなくなりました。

大学の学習サポート活用

私は言語学習において、豊橋キャンパスの語学教育研究室を最大限活用することをおすすめします。特に以下三つのポイントが役立ちました。

1. ランゲージカフェの利用

大学一年次から、私はフランス語のランゲージカフェに毎週通っていました。ここではフランス人の先生と直接お話しする貴重な体験が得られ、フランス語への興味が増すとともに、「もっと学びたい!」という気持ちが大きくなりました。

2. 映画鑑賞

私はよく学習の息抜きに、フランス語の映画を観るため語学教育研究室を訪れていました。映画を観ることで、フランス語の発音に慣れることができ、フランス人の性格や文化を知ることができました。個人的におすすめの映画は「最強のふたり」です。興味があればぜひ観てみてください！

3. 学習教材の活用

語学教育研究室には、10年以上前の教材から最新のものまで、幅広い教材が揃っていました。特に、仏検の模試や過去問題集が、試験対策としても非常に有効でした。このように充実した教材を無料で活用できる環境が整っていたため、効率的に学習を進めることができました。

現在は四年次になり、仏検二級の取得を目標に勉学に励んでいます。ここまで読んでくださった方の大学生活のヒントになれば幸いです！



フランス語検定準二級の合格証明書

音声記号で発音を習得する

国際コミュニケーション学部2年
山本 徹弥

私は2024年度第30回外国語コンテストの英語部門・ドイツ語部門・フランス語部門に参加し、英語部門で2位を、ドイツ語部門で1位を獲得しました。特に、ドイツ語は大学生になるまで本格的に学んだことがありませんでしたが入賞することができました。ドイツ語部門では、与えられた文章を正確な発音で朗読することに重きが置かれていました。では、どのようにしてドイツ語の発音を習得したのでしょうか？

実は、私は外国語の単語の発音を覚える際、仮名文字をいきなり参考にすることはありません。その代わりに、IPA と呼ばれる世界共通の音声記号を用いて学習しています。また、耳で聞いただけでは発音がよくわからないと感じた単語についても、IPA の並びを見て発音を調べます。その際に初めて見る記号の音は、実際の音声を繰り返し聞く、発音する方法を調べるなどをして習得しています。あとは、必要なときにそれを使うだけです。はじめはゆっくりでいいので、以上のことを意識して丁寧に読み上げれば正確に発音できるでしょう。

私の英語学習は中学校で本格的に始まり、これが私の外国語学習の始まりでもありました。当時から英語が他の科目よりもずっと得意だったこと



1 年次で使用していた英語とドイツ語の教科書

/ˈɪŋɡlɪʃ/

「English」の発音を IPA で表したもの

が、私が英語を好きになる転機となりました。そして、高校を卒業する頃には英語のみならず外国語全般に興味をもつようになりました。その結果、ドイツ語やフランス語を含む様々な外国語の発音については、先述の方法を用いて独学である程度習得したと言っても過言ではありません。

その後大学で始まった新たな外国語の授業で、それ以前の独学では決して得られなかった語彙や表現を習得し、語学力を伸ばすことができて非常に嬉しいです。今後も外国語学習を続け、さらなる高みを目指していきたいと思います。

外国語学習を通じて広がる 新しい世界

国際コミュニケーション学部4年
倉橋 杏心

私が第二外国語として中国語を選んだのは、中国のアイドルに興味を持ったことがきっかけでした。最初は拼音や声調の聞き分けに苦戦し、もどかしさを感じることもありましたが、学び続けるうちに少しずつ理解できるようになり、動画の内容を字幕なしで理解できたときの感動は今でも忘れられません。

愛知大学には学びたいという気持ちを支えてくれる環境があります。HSK（中国語能力検定試験“汉语水平考试”）5級の受験に向けて、先生が授



中国語スピーチコンテストの賞状とトロフィー



舞台劇のフィナーレ

業後に毎週作文を添削してくださり、「あなたならできる」と何度も声をかけてくださいました。合格を報告したときには、先生も一緒に喜んでくださり、さらに努力をしようという気持ちが湧いてきました。また、中国語スピーチコンテスト（江蘇杯）に挑戦した際には、留学生の先輩が練習に付き合ってください、発音や表現のアドバイスをいただきました。先輩自身が日本語スピーチコンテストに挑戦したときの苦労や達成感を話してください、私にとって大きな励みになりました。言語は違っても、目標に向かって努力する姿勢は共通なのだと感じました。

そして、実際に中国を訪れたことも成長に繋がったと感じています。現地で舞台劇を鑑賞した際には、俳優の迫力ある演技に感動しただけでなく、セリフが理解できたことで、学んできた知識が実際に生きていると実感しました。また、中国ではよく街で現地の人に話しかけられることがあり、最初は戸惑いもありましたが、徐々にそうしたやりとりを楽しめるようになりました。何気ない会話の中でこそ、生きた中国語や文化の違いを感じることができ、学びの喜びを改めて実感しました。

言語を学ぶことは、自分の可能性を広げることだと強く感じています。翻訳ツールが発達した今でも、自分の言葉で伝え、相手の言葉で理解することが、人と人との心の距離を縮める力になると信じています。中国語を学ばなければ出会えなかった人たちが、できなかった経験が多くあります。これからも、中国語を通してさらに自分の世界を広げていきたいと思っています。

日韓タンデム学習で得た 貴重な経験

現代中国学部 4年
PARK JAESUNG

私が愛知大学の日韓タンデム学習に参加したきっかけは、日本での生活を始めた時に言語の壁を感じたからです。韓国で兵役を終えた後、日本に留学するための試験を受けることになり、教科書や授業で学んだ日本語と実際の生活で使われる日本語との違いに気づきました。教科書では文法や単語を学んでも、実際の会話では日常的に使われる自然な表現や発音が重要であり、特に日本人との会話では教科書に載っていない表現が多いため、それをどう使いこなすかが課題でした。そのため、私は実際に日本人と直接交流し、現地で使われる表現や発音を学ぶことでコミュニケーション能力を向上させたいと考え、日韓タンデム学習に参加することに決めました。単に言語を学ぶだけでなく、異なる文化や価値観に触れることで、自分の視野を広げ、新たな視点を得ることができると考えたからです。

日韓タンデム学習に参加してからの経験は非常に豊かなものでした。私たちは、特に決まったテーマを設けず、その日の興味に基づいてフリートークを行いました。お互いに日本や韓国に対する関心があり、質問したり、答えたりしながら会話を進めました。時には説明が足りないと感じた部分について、私は日本語で調べ、相手は韓国語で調べて情報を共有することもありました。このようにお互いの言語を使いながら学び合うことで、理解が深まり、より効果的な学習ができたと感じています。また、K-POPの歌詞を一緒に解釈することもありました。その際には、歌詞の文法や語彙がどのように使われているのかを考えながら、意味を理解し、その歌詞をお互いの言語に翻訳するという活動も行いました。

言語を学ぶ目的や目標は人それぞれ異なります



ペア名でもあった「チング」と一緒に



日韓タンデムの修了式

が、共通して言えることは、言語学習を始める際には多くの人が教科書や教材を使って学び始めるという点です。しかし、言語はあくまでコミュニケーションのための道具であり、その力を活かさなければ、学んだ言葉も無駄になってしまいます。私が日韓タンデム学習を始めた時は、緊張や不安がありましたが、相手と直接コミュニケーションを取ることで、言語を学ぶ意欲が高まり、どんどん親しくなることができました。その過程で、日本語のスキルだけでなく、文化的な視点も広がり、成長を実感することができました。学習を終えた後でもお互いに連絡を取り合い、さらに深い友好関係を築くことができたことは、大きな喜びでした。このような経験は本当に貴重で、多くの学生に参加してもらいたいと心から思います。日韓タンデム学習は、言語を学ぶだけでなく、異なる文化や考え方に触れ、より豊かな人生を送るための素晴らしい手段だと感じています。

授業外で韓国語を学び、 交流できる愛知大学の取り組み

法学部

朴 瑞庚

愛知大学では、正規の韓国語授業に加え、授業外でも韓国語を学び、交流を深めるためのさまざまな取り組みが用意されています。これらの取り組みは、語学力の向上だけでなく、異文化理解や国際的な視野の育成にもつながる、非常に重要な機会です。以下に主な取り組みを紹介します。

(1) 交換留学

愛知大学は、韓国の建国大学および中央大学と協定を結んでおり、これらの大学への交換留学が可能です。選考によって選ばれた学生は、半年から1年間、現地で生活しながら韓国語を学び、専門科目の授業を受講します。現地での生活を通じて、日常的に韓国語を使う環境に身を置くことができ、語学力はもちろん、異文化理解や自立心も養われます。選考試験は毎年9月頃に実施され、合格者は翌年3月から現地の授業に参加します。

(2) 海外短期語学セミナー

長期の留学が負担に感じる学生には、海外短期語学セミナーへの参加がおすすめです。このセミナーでは、韓国の協定校で言語や文化を学ぶ貴重な機会が提供されます。参加者は韓国語の授業を受けるほか、韓国文化に触れるさまざまなアク

ティビティにも参加します。2025年度は、8月初旬に約2週間、中央大学での海外短期語学セミナーが予定されています。現地の学生との交流を通じて、国際的な視野を広げる絶好の機会です。

交換留学や海外短期語学セミナーについて詳しく知りたい人は、国際交流課に相談してみてください。

(3) 日韓タンデム学習

「タンデム」とは二人乗り自転車を意味し、タンデム学習はお互いの言語や文化を教え合う学習スタイルです。愛知大学に在学する韓国人留学生とペアを組み、興味のあるテーマを決めて、自分たちのペースで学習を進めます。学び合う中で文化的背景への理解が深まり、友情が芽生えることもあります。2024年度には、優秀な学習報告を提出したペアが修了式で表彰されるなど、学習成果を称える取り組みも行われました。言語だけでなく、人とのつながりを深めたい学生にとって魅力的な活動です。

(4) 韓国語フリートーク

グローバルラウンジでは週に2回、韓国語フリートークを実施しています。韓国ソウル出身のネイティブスピーカーが講師を務め、リラックスした雰囲気の中で韓国語の会話を楽めます。日常会話や韓国文化について自由に話すことができ、実践的な会話力を養う良い機会です。フリートークは堅苦しくなく、ハングルが読める入門レベルから流暢に話せる上級者まで幅広く受け入れており、誰でも気軽に参加できる点が魅力です。希望者は下記QRコードから事前申請を行うこと



国際交流課（厚生棟5階）



グローバルラウンジ（厚生棟5階）

で参加できます。

日韓タンデム学習や韓国語フリートークに関心のある人は、グローバルラウンジを訪れてみてください。

(5) 外国語コンテスト

年末には、日頃の学習成果を発表する場として外国語コンテストが開催されます。韓国語部門では、2024年度に韓国の昔話を題材とした朗読が課題として出され、学生たちは発音や表現力を競い合いました。このコンテストは、単に語学力を確認するだけでなく、自分の成長を実感し、新たな目標を見つける貴重な機会になります。人前で発表することが苦手な人にとっても挑戦する価値のある経験です。

(6) 外国語検定奨励制度

愛知大学では外国語教育に力を入れており、韓国語学習においてもさまざまな支援を行っています。その一環として、韓国語能力試験（TOPIK）やハングル検定で優れた成績を収めた学生に奨励金が交付される制度があります。これは、学生がさらなる目標に向かって努力を続けるための後押しとなる制度です。この制度を活用し、自分の語学力の進歩を実感し、検定合格という目標に向けて挑戦してみてください。



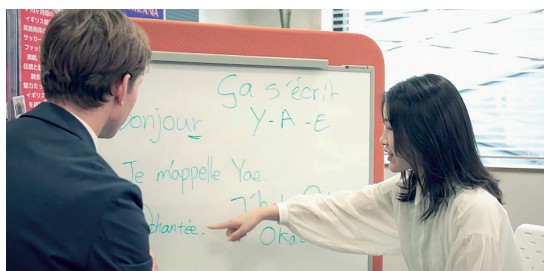
語学教育研究室主催 外国語コンテスト表彰式

外国語コンテストや外国語検定奨励制度について詳しく知りたい人は、語学教育研究室にお気軽にお立ち寄りください。特に語学教育研究室には、検定対策に役立つテキストも揃っています。

以上のように、愛知大学では授業外でも韓国語を学び、実践的な交流を深めるための多彩な取り組みが行われています。どの取り組みも学生の主体的な参加を促し、単なる語学学習にとどまらず、国際的な視野や異文化理解を深める貴重な経験となります。私自身、こうした取り組みに関わる中で、大きく成長していく学生をたくさん見してきました。参加することで、思っている以上の成果が得られると思います。韓国語学習に興味がある人は、ぜひこれらの機会を積極的に活用して、自分の可能性を広げてみてください。

Le Global Lounge : Un laboratoire d'immersion francophone à l'Université d'Aichi

Faculté de communication internationale Corentin Pieters



Au sein de l'Université d'Aichi, le *Global Lounge* se présente comme un espace d'échanges interculturels et de découverte des langues, pensé en dehors du cadre formel de la classe. Depuis 2022, j'ai le plaisir d'y animer régulièrement des activités en français, ouvertes à l'ensemble des étudiants de l'université, quel que soit leur niveau. Ces séances ont pour ambition de favoriser un contact authentique avec la langue et la culture francophones, dans un cadre à la fois informel, stimulant et bienveillant.

La création de cette section francophone du *Global Lounge* s'appuie sur une expérience préalable : celle du *Café des amis*, que j'ai animé à l'Institut français du Kansai (Kyoto et Osaka). Dans ce contexte, j'ai expérimenté des formats interactifs et conviviaux de médiation culturelle et linguistique, basés sur des jeux, des discussions guidées, et la co-construction du sens. Ces pratiques m'ont permis de concevoir une approche pédagogique fondée sur l'immersion légère, la répétition implicite, et l'engagement émotionnel dans l'apprentissage. J'ai ensuite transposé cette démarche dans le contexte universitaire japonais, en l'adaptant aux besoins spécifiques des apprenants locaux.

Un public débutant aux besoins différenciés

Le programme mis en place s'adresse principalement à des apprenants de niveau débutant à faux-débutant (A1 à A2+ selon le CECRL). Afin de mieux cerner les attentes et difficultés de ce public, une phase d'analyse

préalable a été conduite. Celle-ci s'est articulée autour de trois axes :

- Une **enquête sur les motivations** a révélé que 78 % des étudiants étaient attirés par des aspects culturels (gastronomie, cinéma, musique), plutôt que purement linguistiques.
- Un **test diagnostique** a montré que 92 % des participants se situaient en dessous du niveau A1 en production orale, malgré parfois plusieurs années d'apprentissage scolaire.
- L'**analyse des erreurs récurrentes** a mis en évidence deux domaines particulièrement problématiques : la phonétique (système accentuel, voyelles nasales) et la mémorisation lexicale.

À partir de ces constats, j'ai élaboré un dispositif d'apprentissage souple et modulaire, articulé autour de trois types d'ateliers complémentaires.

1. Ateliers de phonétique corrective selon la méthode verbo-tonale

Les ateliers phonétiques reposent sur la méthode verbo-tonale (Renard, 1971), dont les principes sont particulièrement adaptés à un public non spécialiste. Cette méthode repose sur une approche perceptive et globale de la correction phonétique, privilégiant l'écoute, l'imitation et la rééducation prosodique plutôt que l'analyse métalinguistique.

Dans le cadre du *Global Lounge*, ces ateliers incluent :

- des **supports visuels** (schémas articulatoires simplifiés, gestes associés) pour renforcer la conscience articulatoire,
- des **exercices rythmiques** (virelangues, comptines, reformulations prosodiques) favorisant l'automatisation des patrons mélodiques du français,
- des **jeux de discrimination auditive** visant à développer la sensibilité aux contrastes pertinents

(ex. : /u/ vs /y/, /ɛ/ vs /ã/).

Ces activités, bien que ludiques, s'inscrivent dans une logique didactique rigoureuse. Elles visent une amélioration tangible de l'intelligibilité orale, mais aussi une revalorisation de l'image de soi langagière, souvent fragilisée chez les apprenants asiatiques.

2. Conversation accompagnée avec des locuteurs natifs

Un autre pilier du dispositif repose sur l'organisation de séances de conversation avec des étudiants francophones en échange à l'université. Ces rencontres, encadrées selon les principes du tandem linguistique (Little, 2001), sont conçues pour créer un environnement d'immersion partielle et de communication authentique. Les bénéfices observés sont multiples :

- renforcement de la **compétence pragmatique** (prise de parole, gestion de l'interaction)
- **réduction de l'anxiété langagière**, grâce à un cadre rassurant et non évaluatif
- développement de la **compétence interculturelle** par la confrontation directe à d'autres normes d'interaction.

Ces interactions sont en cohérence avec les travaux de Kinginger (2013), qui souligne l'importance des expériences relationnelles dans l'acquisition d'une langue étrangère.

3. Ateliers de sensibilisation interculturelle

Enfin, les séances intègrent des activités de découverte

culturelle autour de thèmes accessibles et mobilisateurs : la gastronomie, les fêtes traditionnelles, les gestes sociaux, ou encore les différences de politesse. Ces ateliers permettent de développer ce que Byram (1997) appelle la compétence interculturelle, c'est-à-dire la capacité à naviguer entre différentes références culturelles tout en construisant une posture réflexive et ouverte.

À travers ces approches croisées – phonétique, interaction, culture – le *Global Lounge* s'affirme comme un véritable laboratoire d'expérimentation didactique. Il permet de repenser l'apprentissage des langues non plus comme un simple transfert de savoirs, mais comme un processus complexe, situé, et profondément humain.

Références

- Byram, M. (1997). *Teaching and Assessing Intercultural Communicative Competence*. Multilingual Matters.
- Horwitz, E. (2001). Language anxiety and achievement, *Annual Review of Applied Linguistics*. (pp. 112–126).
- Kinger, C. (2013). *Social and Cultural Aspects of Language Learning in Study Abroad*. John Benjamins.
- Little, D. (2001). Learner autonomy and the challenge of tandem language learning via the Internet. In A. Chambers & G. Davies (Eds.), *ICT and Language Learning: a European Perspective* (pp. 29–38). Lisse: Swets & Zeitlinger.
- Renard, R. (1971). La méthode verbo-tonale de correction phonétique. Didier.

グローバル・ラウンジ

——愛知大学におけるフランス語没入体験ラボ

国際コミュニケーション学部 コランタン・ピータース

愛知大学にあるグローバル・ラウンジは、授業の枠を超えた異文化交流と言語体験の場として設けられています。私は2022年から、このラウンジ

で定期的にフランス語によるアクティビティを実施しており、大学のすべての学生を対象に、レベルに関係なく参加できるよう開放しています。こ

これらのセッションは、フランス語およびフランス語圏文化との本物の接触を促すことを目的としており、くつろいだ雰囲気でありながら刺激的かつ温かみのある環境で行われています。

このグローバル・ラウンジにおけるフランス語セッションが生まれることになったのは、私が以前に関西日仏学館（京都および大阪）で実施していた「カフェ・デ・ザミ（友だちのカフェ）」での経験を元にしています。この活動では、ゲームやガイド付きのディスカッション、意味の共同構築などを通じて、文化と言語の媒介を行うインタラクティブで親しみやすい形式を試行錯誤してきました。これらの実践から、軽度の没入、暗黙の繰り返し、そして感情的な関与に基づいた教育アプローチを築くことができました。この方法を、日本の大学教育の文脈に適応させる形で導入しています。

初級者向けの多様なニーズへの対応

このプログラムは、初級～初中級レベル（ヨーロッパ共通参照枠の基準で A1～A2+ レベル）の学習者を主な対象としています。対象学生のニーズや課題をより明確に把握するために、事前の分析を行い、以下の3つの観点に集約されることがわかりました。

- **動機に関する調査**：学生の78%が、言語そのものよりも文化的側面（料理、映画、音楽）に興味を持っていることが判明。
- **診断テスト**：参加者の92%が、大学での数年間の学習経験があるにもかかわらず、話す力は A1 レベル以下であることが判明。
- **まちがいの分析**：特に問題が顕著だったのは「発音（アクセントの配置、鼻母音）」と「語彙の記憶」。

これらの結果に基づき、3つの補完的なワークショップから成る柔軟かつモジュール型の学習方法を考案しました。

1. ベルボ・トナル法^{訳注}による発音矯正ワークショップ

発音のワークショップは、1971年に Renard によって提唱されたベルボ・トナル法に基づいています。この手法は、専門知識を持たない学習者にも適しており、メタ言語的な分析よりもむしろ「聞く」「真似る」「イントネーションを矯正する」ことを重視した感覚的・全体的アプローチです。グローバル・ラウンジでの実践内容：

- 簡略化した発音図やジェスチャーなどの**視覚的媒体**で発音の仕組みを理解
- フランス語のリズムパターンの自動化を促す**リズム練習**（早口言葉、童謡、イントネーション変換）
- **聴覚識別ゲーム**で、/u/ と /y/、/ɛ/ と /ɑ/ などの対立音を聞き分ける感覚を養う

これらの活動は楽しいだけでなく、実際に口頭での理解度を向上させることを目的としており、またアジア人学習者に多く見られる言語に対する自信の低さを克服する助けにもなります。

2. ネイティブスピーカーとの対話活動

次に重要なのは、交換留学生であるフランス語母語話者との会話セッションの実施です。これは Little (2001) のタンデム学習法に基づき、部分的な言語没入と本物のコミュニケーションの場を作ることを目的としています。ここで得られた効果は以下のように多様です。

- 発話や対話スキルといった**実践的言語能力の向上**
- 評価されないリラックスした環境での学習により**言語不安の軽減**
- 異なるやりとりの規範に触れることによる**異文化理解の促進**

これらの対話は、言語習得における人間関係の重要性を指摘した Kinginger (2013) の研究とも一致しています。

3. 異文化理解ワークショップ

最後に、食文化、伝統行事、社会的身ぶり、礼儀の違いなどをテーマにした文化体験アクティビ

ティも組み込まれています。これらは、Byram (1997) が提唱する異文化能力（異なる文化的参照枠の間を行き来し、柔軟かつ批判的な視点を育む力）を育てるためのものです。

このように、発音・対話・文化という3つの軸を組み合わせることで、グローバル・ラウンジは単なる語学学習の場ではなく、教育実践の実験室としての役割を果たしています。ここでは、言語学習を単なる知識の伝達ではなく、複雑かつ明確な道筋を持つプロセスとして、そして極めて人間的なプロセスとして再定義しています。

参考文献（省略）

訳註

ベルボ・トナル法：言語習得の際に、言葉のもつリズムやイントネーションを大切に、聴覚以外の視覚・触覚などの感覚を活用する発音指導法。

（日本語訳 経営学部 下村 武）

Aichi University Lingua バックナンバー

創刊号	特集 私と外国語
第2号	特集 外国語検定試験特集～あなたもぜひチャレンジしよう！ 語学の担当教員が勧める検定試験の案内と受験学生の体験
第3号	特集 オススメ海外文化情報～英語圏特集～
第4号	特集 オススメ海外文化情報～ヨーロッパ特集～
第5号	特集 フィールドワーク・語学セミナー特集
第6号	特集 長期海外留学・大学院進学特集
第7号	特集 文化—こだわりの〇〇—
第8号	特集 外国語学習の苦勞と醍醐味
第9号	特集 童話・メルヘン・絵本のおはなし
第10号	特集 映画
第11号	特集 社会科学を原語で読む
第12号	特集 古典を撫でる
第13号	特集 「食」—世界の食卓をのぞいてみよう 留学体験／江蘇杯中国語スピーチコンテスト
第14号	特集 オススメ海外文化情報～アジア特集～
第15号	特集 祭事・年中行事
第16号	特集 一度は行ってほしい・体験してほしい世界の〇〇
第17号	特集 映画を通して言語、文化に触れよう
第18号	特集 乗り物と旅行—各国交通事情—
第19号	特集 世界の音楽と楽器
第20号	特集 世界の遊びとゲーム事情
第21号	特集 世界で知られている「日本」
第22号	特集 外国語を学ぶ・教える—留学体験記
第23号	特集 外国語を学ぶ・教える—留学体験記
第24号	特集 大学生の学生生活

名古屋語学教育研究室主催

2024年度 第30回 外国語コンテスト 結果報告

2024年11月から12月にかけて、名古屋キャンパス恒例の外国語コンテストがすべての部門(8言語10部門)でコンテストが開催されました。各部門とも非常に高いレベルの発表に、審査員は順位をつけることに大変苦労されたとのことでした。

12月19日木曜日に行われた表彰式では、各部門優勝者の発表に聞き入ったり、パフォーマンスでは大いに盛り上がりたりと、交流を深めておりました。(審査結果は以下の通りです)

英語部門

- 1位 杉江 ちなみさん 経営学部2年
- 2位 山本 徹弥さん 国際コミュニケーション学部1年
- 3位 川嶋 ジャンポールさん 国際コミュニケーション学部1年

ドイツ語部門

- 1位 山本 徹弥さん 国際コミュニケーション学部1年
- 2位 野嶋 奈央さん 国際コミュニケーション学部4年
- 3位 加藤 智子さん 国際コミュニケーション学部1年

フランス語部門

- 1位 山本 タイスさん 国際コミュニケーション学部2年
- 2位 シェンディララさん 国際コミュニケーション学部3年
- 3位 斉藤 コウジさん 国際コミュニケーション学部2年

中国語[法・経済・経営・国際コミュニケーション]部門

- 1位 倉橋 杏心さん 国際コミュニケーション学部3年
- 2位 曽我 美奈さん 法学部3年
- 3位 神戸 琴美さん 国際コミュニケーション学部3年

ロシア語部門

- 1位 加藤 友香さん 法学部3年
- 2位 西岡 実優さん 法学部1年
- 3位 橋本 たまきさん 経済学部2年

中国語[現代中国学部]1年生部門

- 1位 山田 安里さん 現代中国学部1年
- 2位 鈴木 愛稀さん 現代中国学部1年
- 3位 佐護 爽風さん 現代中国学部1年

中国語[現代中国学部]2年生以上部門

- 1位 鈴木 瑠南さん 現代中国学部4年
- 2位 西谷 涼夏さん 現代中国学部4年
- 3位 松平 壮生さん 現代中国学部3年

韓国・朝鮮語部門

- 1位 平岡 茉莉さん 国際コミュニケーション学部2年
- 2位 牛田 瑠渚さん 法学部4年
- 3位 中川 敬太さん 経済学部3年

タイ語部門

- 1位 依田 柚葉さん 国際コミュニケーション学部1年
- 2位 櫻本 泰志さん 経済学部1年
- 3位 川本 尚さん 経営学部1年

日本語部門

- 1位 MOON YUBINさん 国際コミュニケーション学部3年
- 2位 LIU YILINさん 国際コミュニケーション学部3年
- 3位 AN SOYEONさん 経営学部2年

参加いただきました皆様、ありがとうございました。





Language Café

もう参加しましたか？

ネイティブスピーカーの先生方や留学生と
＼ 気軽に交流できる自由参加型のCaféです ／

学部を問わず誰でも参加できます！
コーヒー・紅茶などドリンクもあるので
昼食を取りながら
楽しくお喋りしてみませんか？

開催日時：授業期間の平日(木曜以外)

12:40～13:05

詳しくはHPまたはランゲージセンターへ！

豊橋語学教育研究室

今秋 ランゲージセンターは
新棟 **Center Bldg.** へ
移転予定です！

現在 梢風館 1 階で運営していますが、移転に伴い夏季休暇期間中の開室時間・時期が例年と異なります。

また、場合によっては夏季休暇中、開室していても資料の貸出が行えない可能性もあります。

詳しくは、ランゲージセンターに掲示される開室スケジュールをご確認ください。

2025年度 外国語検定試験奨励金制度のご案内

名古屋校舎			豊橋校舎	
言語	試験名称	基準	試験名称	基準
英語	実用英語技能検定（英検）	準1級以上	実用英語技能検定（英検）	2級以上
	TOEIC Listening & Reading Test*	650点以上	TOEIC Listening & Reading Test*	530点以上
	TOEIC Speaking & Writing Tests*	130点以上	TOEIC IP	①750点以上 ②前年比100点以上
	TOEFL iBT	50点以上	TOEFL iBT	50点以上
	IELTS	4 以上		
	国際連合公用語英語検定(国連英検)	B 級以上		
	ビジネス通訳検定（TOBIS）	3 級以上		
	日商ビジネス英語検定	3 級以上		
	通訳案内士（通訳ガイド）	合格		
ドイツ語	ドイツ語技能検定（独検）	4 級以上	ドイツ語技能検定（独検）	4 級以上
フランス語	実用フランス語技能検定（仏検）	4 級以上	実用フランス語技能検定（仏検）	4 級以上
	DELFS・DALF	A1以上	DELFS・DALF	A1以上
	TCF	100点以上	TCF	100点以上
◎中国語	中国語検定	4 級以上	中国語検定	4 級以上
	HSK	3 級以上	HSK	3 級以上
ロシア語	ロシア語能力検定	4 級以上	ロシア語能力検定	4 級以上
韓国・朝鮮語	ハングル能力検定	4 級以上	ハングル能力検定	4 級以上
	韓国語能力（TOPIK）	2 級以上	韓国語能力（TOPIK）	2 級以上
タイ語	実用タイ語検定	4 級以上		
日本語	日本語能力（JLPT）	N1級	日本語能力（JLPT）	N1級
	BJT ビジネス日本語能力テスト	460点以上	BJT ビジネス日本語能力テスト	460点以上

*名古屋校舎の TOEIC は公開テストのみとなります。 ◎中国語は現代中国学部を除きます。

受付期間 名古屋校舎 ①2026年3月卒業予定者：10月31日（金）まで
ただし、11月1日（土）から1月30日（金）の受験または受験結果および、
10月31日（金）までに申請できなかった者は、1月30日（金）まで申請受付を可とする。

②①以外の者：1月30日（金）まで

豊橋校舎 2025年12月1日（月）～2026年2月19日（木）

詳細は所属校舎の語学教育研究室にて確認してください。

奨励対象者 学部学生・短大生（協定留学生・大学院生・科目等履修生は除きます）

〈編集後記〉

Lingua 25号では、「おススメ、愛大の外国語の学び方——授業外でも学ぶ言語と広がる交流の場」を特集しました。スピーチコンテストやフリートーク、タンデム学習など、多彩な取り組みを学生の視点から紹介し、語学教育関連施設についても先生方に詳しく解説していただきました。学生の学びを支えたいという先生方の思いが、読者である学生のみなさんに少しでも伝われば幸いです。ご寄稿いただいた皆様、学生をご紹介くださった法学部の鄭先生、グローバル라운ジの福原様に感謝いたします。また、委員長として不慣れな私を支え、学生募集から日程調整までご尽力くださった語学教育研究室の長谷川様に深く感謝申し上げます。

Lingua 25号編集委員会（朴 瑞庚、島田 了、下村 武、藤森 猛）